

目次

- 1 はじめのうた
- 2 季節のカード (行事編)
- 3 俳句 井原西鶴 正岡子規 夏目漱石
- 4 あそびうた 地図マークのうた
- 5 早口ことば 「長町の七曲がりには長い七曲がりだ」
- 6 かぞえうた 1挺 1巻 1組 (そろばん、毛糸、トランプ)
- 7 今月の詩 貫ぬく光 八木重吉
- 8 たし算 9の段
- 9 ことわざ 船頭多くして船山に上る 前門の虎後門の狼
大は小を兼ねる 大山鳴動してねずみ一匹
- 10 かけ算 同じかけ算
- 11 なぞなぞ
- 12 手あそびうた あぶくたった
- 13 今月のうた 光と色
- 14 四字熟語 異口同音 虎視眈々 四苦八苦
- 15 おはなし ねこがねずみを追いかけるわけ
- 16 童謡 子守歌
- 17 イメージトレーニング 森のお友だち (第9話 コン子さんへのおみやげ)
(イメージしてみましよう)
- 18 漢詩 除夜の作
- 19 百人一首 寂蓮法師 紀貫之 待賢門院堀川 式子内親王
- 20 復習コーナー
- 21 暗示 (静かなところで目を閉じて聞きましょう)

俳句

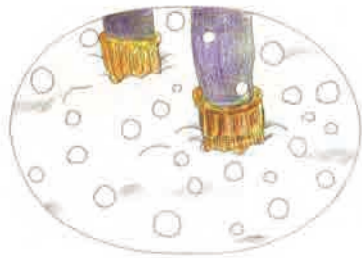
おおみそか さだ よ
大晦日 定めなき世の さだめかな

いはらさいかく
井原西鶴



いくたびも ゆき ふか
いくたびも 雪の深さを たずねけり

まさおかしき
正岡子規



こがらしや うみ ゆう ひ
こがらしや 海に夕日を 吹き落とす

なつ め そう せき
夏目漱石



《^ち ^ず 地図マークのうた》

みんなで^ち^ず地図を ひろげよう
 いろんなマークが かかれてる
 いねかりあとの マークはたんぼ
 くさがぼうぼう あれちです
 ばってんマークは ^{けい}^{さつ}^{しよ}警察署
 ワイににている ^{しよ}^{ぼう}^{しよ}消防署
^{べん}^{きよ}^う勉強するのは ^{がっ}^{こう}学校で
^て^が^み手紙にはがきは ^{ゆう}^{びん}^{きょく}郵便局
 りんごがおいしい ^か^{じゅ}^{えん}果樹園
^{じゅう}^じ十字のマークは ^{びょう}^{いん}病院だ
^{てら}^{じん}^{じゃ}お寺に神社 ^{はつ}^{でん}^{しよ}発電所
^き^{ごう}記号を ^{おぼ}覚えて ^{たん}^{けん}探険だ



今月の詩

つら
貫ぬく 光
ひかり

や ぎじゅうきち
八木重吉

はじめに ひかりがありました
ひかりは ^{かな} 哀しかったのです

ひかりは
ありと あらゆるものを
つらぬいて ながれました
あらゆるものに ^{いき} 息を あたえました
にんげんのこころも
ひかりのなかに うまれました
いつまでも いつまでも
かなしかれと ^{いわわ} 祝福れながら

せんどう おお ぶんね やま のぼ
船頭多くして船山に上る

さしず ひと おお どういつ けんとうちが
指図する人ばかり多くて統一がとれず、見当違いの
ほう ものごと すす
方に物事が進むこと。



ぜんもん とらこうもん おおかみ
前門の虎後門の狼

ひと わざわ のが おも ほか
一つの災いを逃れたかと思ううちに、さらにまた他
の災いに遭うこと。



だい しょう か
大は小を兼ねる

おお ちい こうよう も
大きいものは小さいものの効用をあわせ持っている
ので、大きいものの方が使い道が
ひろ
広い。



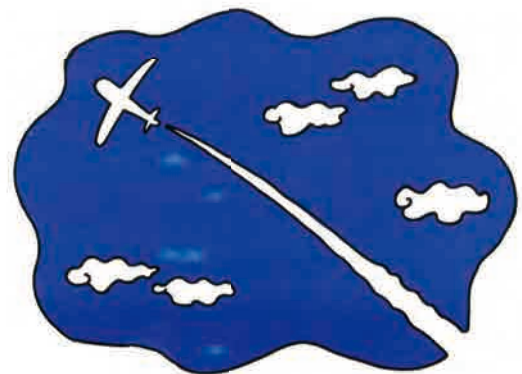
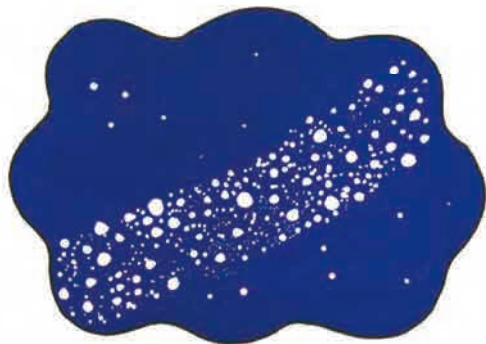
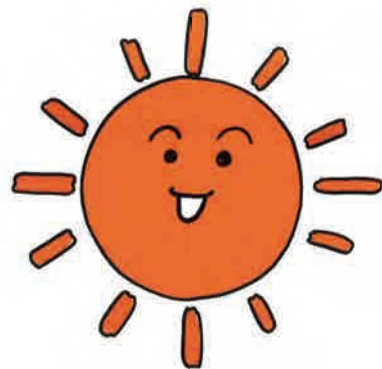
たいざんめい どう いっぴき
大山鳴動してねずみ一匹

おおさわ けっか ちい
大騒ぎしたわりに、その結果が小さいこと。



なぞなぞ

- 1 ^{まる}丸くなったり、^{はんぶん}半分になったり、^{ほそ}細くなったり、^{よる}夜になると見えるものなあに？
- 2 お^{てんき}天気の日に出^ひてくるもので、まぶしくて良^よく見えないものなあに？
- 3 ^{みず}水がないのに^{かわ}川という、^{そら}空にある^{かわ}川なあに？
- 4 ^{ひこうき}飛行機が^{とお}通ったあとにできることがある^{くも}雲は、なあに？



《あぶくたった》

- ① あぶくたったにえたった
にえたかどうか たべてみよう



おには、まんなかてにすわる。
手をつないで、うたいながら
まわる。

- ② ムシャムシャムシャ



おにのあたまをさわり、
たべるまねをする。

- ③ まだにえない



わのかたちにもどる。

- ④ もうにえた



みんなはにげる。おには
おいかけ、つかまったひとが
つぎのおに。

- ☆ ①～③を何回なんかいかくりかえし、
さいごに①～②、④とうたう。

今月のうた

《光と色》

にん げん かん いろ ひかり
人間の 感じる ことができる 光は

あか あお みどり みつ
赤 青 緑 の三つだけ

これを ひかり さん げん しょく
光の三原色

あか あお あか みどり き いろ あお みどり そら いろ
赤と青でピンク 赤と緑は黄色 青と緑は空色

みつ いろ かさ しろ ひかり
三つの色を重ねると 白い光

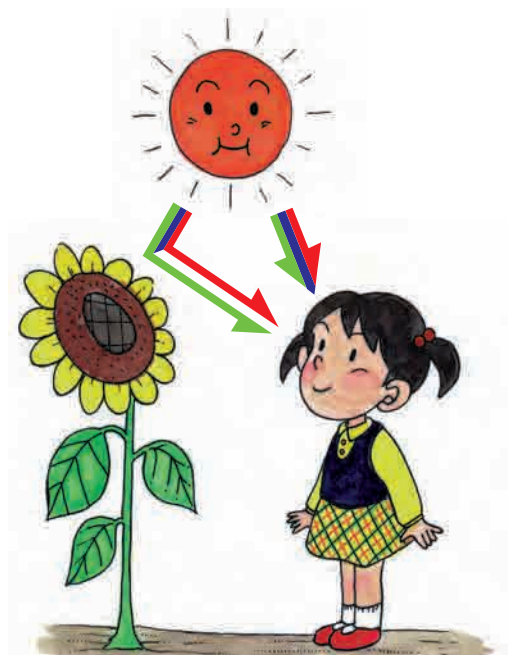
だから たい よう ひかり み
だから太陽の光は 見えないんだ

いろ いろ さん げん しょく あか あお き いろ
色の 色の三原色は 赤 青 黄色

もの いろ この みつ できてる
物の色は この三つで できてる

あか あお むら ざき あか き いろ あお き いろ みどり いろ
赤と青で紫 赤と黄色はオレンジ 青と黄色は緑色

みつ いろ ひかり きゅう しゅう くろ
三つの色をまぜたなら 光が吸収されて 黒になる



い く どう おん
異口同音

おお ひと くち おな い
多くの人々が口をそろえて同じことを言うこと。



こ し たん たん
虎視眈々

とら え もの するど め み お
虎が獲物をねらって鋭い目でじっと見下ろすように、
き かい よう す
機会をねらって様子をうかがっているさま。

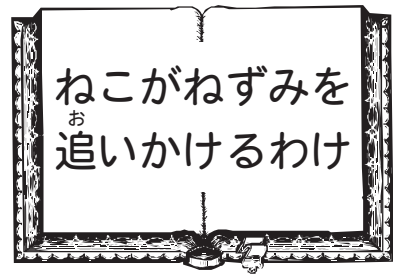


し く はっ く
四苦八苦

ひ じょう くる くろう
非常に苦しむこと。さんざん苦勞すること。



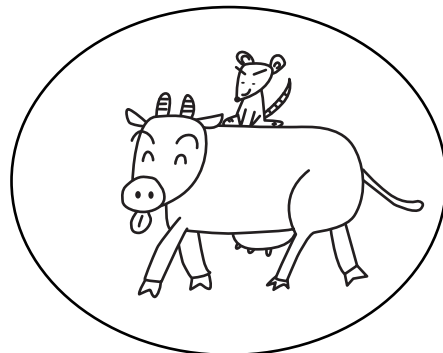
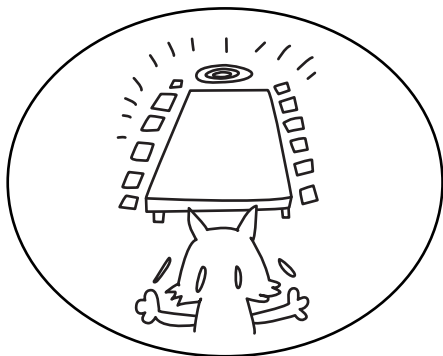
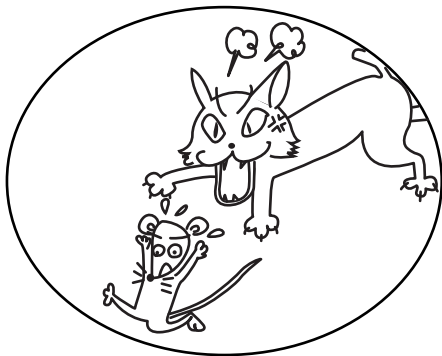
おはなし



このお話は、十二支がどうやって決められたのか、そしてねこがどうしてねずみを追いかけるようになったのか、理由のわかるお話です。

お話を聞いた後で、質問にこたえてみましょう。

- 1 ある年の暮れに、神さまは動物たちに何と言いましたか？
- 2 ねこはねずみに何をたずねて、ねずみはねこに何と答えましたか？
- 3 1番目から12番目までの年の大将の動物（十二支）を順番に言いましょう。
- 4 結局、ねことねずみはどのような関係になりましたか？



除夜の作

旅館の寒灯
客心何事ぞ
故郷今夜
霜鬢明朝

独り眠らず
千里を思わん
又一年
また一年

高

適

村^{むら}雨^{さめ}の

露^{つゆ}もまだ干^ひぬ まきの葉^はに
霧^{きり}立ち^たのぼる 秋^{あき}の夕^ゆ暮^ぐれ

(寂蓮法師^{じやくれんほうし})

人^{ひと}はいさ

心^{こころ}も知らず ふるさと
花^{はな}ぞ昔^{むかし}の香^かにほひける

(紀貫之^{きのつらゆき})

長^{なが}からむ

心^{こころ}も知らず 黒^{くろ}髪^{かみ}の
乱^{みだ}れ^だて今朝^{けさ}は物^{もの}をこそ思^{おも}へ

(待賢門院堀川^{たいけんもんいんのほりかわ})

玉^{たま}の緒^およ

絶^たえなば絶^たえね ながらへば
忍^{しの}ぶることの弱^{よわ}りもぞする

(式子内親王^{しやくしないのう})



寂蓮法師